

令和 4 年度 大阪市立福島区老人福祉センター 事業実績報告書

施設概要

施設名	大阪市立福島区老人福祉センター 愛称：きらめきセンター
所在地	大阪市福島区海老江 6 丁目 1 番 14 号
施設規模	鉄筋コンクリート造 4 階建のうち 2 階部分を使用 延床面積 500.41m ²
主な施設	大広間、会議室、クラブ室など
市が設定した数値目標	センター利用者向け実施する満足度調査で、「満足と回答される方」の割合を 84.6%以上とする。(市内 26 館における過去 3 年間の平均) ※感染症拡大を防止する措置のため、延べ利用人数・登録人数は目標としない。

指定管理者

団体名	社会福祉法人 大阪市福島区社会福祉協議会
事務所の所在地	大阪市福島区海老江 6 丁目 2 番 22 号
代表者	会長 矢山 英夫
指定期間	平成 31 年 4 月 1 日から令和 6 年 3 月 31 日
報告対象期間	令和 4 年 4 月 1 日から令和 5 年 3 月 31 日
担当者	小園 剛
連絡先	(06) 6453-2357
令和 4 年度満足度	86.9% (113/130)

1 指定管理業務の実施状況(1)施設の運営方針

指定管理の 4 年目として、つながり支えあう福祉コミュニティの創出、福祉のまちへとつなぐ架け橋としての役割を担うことを基本方針とした。また、「昭和レトロのアメニティーと手作りのホスピタビリティ」をモットーに事業運営をした。3 年目の新型コロナウイルス感染において利用者が安心して施設利用できるよう対策を実施した。

ア 「コロナ禍に対応した施設運営」 イ 「同好会支援」 ウ 「アウトリーチの広報活動」の 3 点を重点項目として取り組んだ。

ア 「コロナ禍に対応した施設運営」

コロナ禍において 3 密を避ける施策から利用者が多数集まる事業が休止となり、「大勢で賑やかに楽しく」と言った従来の施設運営とは違う視点が必要となった。人数制限による定員の設定や、定員削減の為、複数回の実施など従来と違い「少数で静かに黙々と」を継続した。

長期のコロナ禍の中で、当センターが介護予防のメニューとしての「数独」「塗り絵」は好評であった。

イ 「同好会支援」

コロナ禍により 25 ある同好会の中で、活動が休止となる同好会は「発声」「激しい動き」「飲食」「3 密」などに該当している。3 同好会が休止中。(自粛も含む)

「個別代表者打合せ」等で説明して活動可能な同好会にも「安全・安心」な活動をアドバイスした。また、人数制限による分離使用も日程調整をして支援した。

ウ 「アウトリーチの広報活動」

「センターだより」は多くの方が目を通して頂いている。新規利用者発掘に従来の配架以外に、区社協 地域包括支援の「出張相談」に「センターだより」と、当センターで実施しているコロナ禍によるステイホームを楽しむ応援企画、「大人のぬりえ」、「チャレンジ数独」のお試し版を資料として配布を依頼。また、区内公園にて月 2 回、老人クラブ「歩こう会」でも継続して配布を行った。

上福島地区は、老人クラブが唯一福島区老人クラブ連合会を脱退しているので(福寿会)老人クラブへの「センターだより」の提供。さらに、連合町会との新たな取り組みとして 8 町会向けに回覧用の「センターだより」配布を下期より実施。

(2)施設の維持管理

日常の清掃時の点検を基本に、定期的に館内巡視を実施。軽微なものについては職員が修繕を行った。当センターは、築 51 年以上経過しており、定期的なメンテナンスにより建物の維持管理につとめるとともに、建築基準法等関係法令により定められた法定点検を行った。また、「市設建築物日常点検ハンドブック」に記載された検査項目による点検を現場の統括責任者であるセンター館長が行い、現状の把握及び破損箇所等の早期発見等、利用者への事故や危険性防止に努めた。

また、はじめて福島区福祉複合施設の全面外壁工事を実施した。安心安全に注力し、諸問題があったが半年で完了した。

実施項目

- | | |
|--|-----------------------|
| ア 日常清掃 開館時間前、閉館後 | イ 定期清掃 月 1 回 (外溝、排水等) |
| ウ 日常点検 清掃時 | エ 定期点検 (職員による) |
| a. 通常空調設備点検 月 1 回 b. 定期空調設備点検 年 2 回 | |
| オ 定期点検 (業者による) | |
| a. 建物・設備点検 年 2 回 b. 電気点検 月 1 回 c. 自動ドア 年 3 回 | |
| d. エレベーター点検 月 2 回 | |

(3)職員の配置状況

施設長 1 名、職員 0 名・嘱託職員 3 名

(4)感染症拡大を防止するための対策等の状況

- ・ 利用者にマスク着用、手指アルコール消毒の徹底、3密の注意喚起。
- ・ 玄関、トイレ、各部屋にアルコール消毒液の設置。
- ・ 空気清浄機を各部屋に設置。
- ・ 密集を避ける対策として、人数制限、机・椅子の設置制限、長椅子の両端使用等。
- ・ 各部屋の換気は常時2方向とし、換気扇、空気清浄機も使用。
- ・ 給茶機コップは紙コップへ、トイレのハンドドライヤーはペーパータオルへと変更。
- ・ 玄関ロビーに検温カメラを設置し、受付はビニールカーテンを設置。事務所の机はアクリル板を設置して職員間の感染を防止。
- ・ 来館時の利用者へ来館カードを採用し、記入により来館時間を把握。クラスター発生時等に対応。
- ・ 事業終了時、使用物は職員にて消毒を行い、同好会活動は会員へ消毒スプレーを貸し出し対応。
- ・ 同好会活動の人数制限による分散利用など、日程調整を行い活動の支援。
- ・ また、大阪市等の情報を参考にして、時宜に応じた感染防止対策を推進するとともに、ポスターやチラシなどで情報提供、及び注意喚起。

(5)危機管理・安全管理（事故防止等安全対策、災害等緊急時の対応への準備）

利用者の転倒事故等の防止として日常より、段差解消及び備品設置等に注意を払っている。また、事故発生時の対処マニュアルを事務所に掲示して、適切で迅速な対応が取れるようにしている。AEDの設置。また、各種講座及び館外行事等においては、保険に加入し万が一に備えた。

地震、火災等の災害時の緊急対応については、併設の海老江保育所、子ども子育てプラザと年間2回、合同避難訓練（6/10 洪水避難訓練、3/2 火災避難訓練は消防署通達による感染予防の為、各施設職員による、避難経路確認、消火器配置確認、発電機始動訓練。）を実施した。

当センターは、区役所との協定によって災害時に福祉避難所として供用する。12/3には災害発生を想定して、市社協・区社協、災害対策本部設置訓練及び災害ボランティアセンター開設訓練を実施。迅速適切な災害対応が行えるよう、市・区社協災害対策本部設置訓練を実施するとともに、災害ボランティアセンター開設までの経過を確認した。また、すみやかな被災者支援につなげる訓練を実施した。10/5、10/19 区社協による災害ボランティアセンター運営スタッフ養成講座に参加。現在、防災無線を区役所用、区社協用と2台配備している。また、災害時にあたり職員の安否確認アプリも導入している。

2 利用状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
延利用 人数	1,619	1,583	1,866	1,709	1,472	1,639	1,820	1,742	1,486	1,443	1,423	1,779	19,581

登録 者数	31	16	10	13	6	5	19	10	3	2	9	4	128
----------	----	----	----	----	---	---	----	----	---	---	---	---	-----

3 実施事業**(1) 事業報告****① 事業計画 (P)**

身近な高齢者施設としての役割を果たすべく、利用者サービス向上を図った。

「相談・情報提供」「生きがい・学習」「健康・介護予防」の3本柱を充実させ高齢者のニーズに合わせたセンター運営を目指した。

コロナ禍において感染防止対策を実施しながら事業を推進する難しい運営となった。

コロナ禍が長期になり、利用者の感染不安に対するケアと感染防止対策をタイムリーに実施した。しかし、利用減少する中で、高齢者の孤立、虚弱や認知症の進行が危惧される。これらの進行防止の為に、「健康・介護予防」を基本とした。学習・体験ができる講座は利用者の要望も高い為、前年度のアンケートを参考に企画開催した。また、アウトリーチとして月2回の区内公園で実施の、老人クラブ「歩こう会」で、認知症予防として当センターで人気の「チャレンジ数独」、「大人のぬりえ」をコロナ禍でのステイホーム応援企画として配布を行った。同じく、区社協 地域包括支援による「出張相談」時にも配布を依頼し実施した。

館内は感染予防対策を行い、利用者が安心して利用できるように運営した。また、館内設備の不具合・故障個所の修理、ECOを推進、蛍光灯のLED化も推進した。

LED化については、3年計画で実施し本年度で完了した。LED化により美観を保ち省エネ化を図ることが出来た。

② 活動内容 (D) (今年度の取組内容)

事業名	事業内容	実施日	実施場所
相談・情報提供 「代表者個別打合せ」	臨時休館解除に向けて、各同好会活動の感染予防対策、今後の日程報告等、相談・支援した。(コロナ感染防止のため、密を避け個別で行った)	25 同好会個別にタイムリー	福島区老人福祉センター会議室 (電話対応含む)
健康・介護予防 「健康セミナー」 (株) 明治	(株) 明治による健康セミナー 「チョコレートの世界へ」	4/20	福島区老人福祉センター クラブ室

(様式 1)

生きがい・学習 「きらめき七夕まつり」	期間中、希望者に短冊を配布。笹に短冊、飾りなどを願いを込めて飾り付けする。コロナ禍により同好会の発表会は中止。	7/1～7/7	福島区老人福祉センター ロビー
生きがい・学習 「風鈴まつり」	酷暑の中、夏の風物詩で少しでも涼しさを感じて頂いた。寄付された風鈴、手作りのモビールなどで館内を彩った。	7/1～9/30	福島区老人福祉センター ロビー
生きがい・学習 ペーパークイニング 体験講座 「2WAY フォトフレームの世界へ」	細長い紙をクルクル丸めながら、パーツを作り組み合わせて色々な形(花、蝶、動物等)に仕上げて行く。	5/31	福島区老人福祉センター クラブ室
生きがい・学習 ドコモ「スマホ体験講座」	① 基本 ② カメラ <全2回> 自分のスマホで体験。 スマホを使いこなす楽しさを味わってもらう。	・ 5/17、 18 ・ 6/9、 10 ・ 7/7、8	福島区老人福祉センター クラブ室
生きがい・学習 「救命講習」 福島消防署救命隊	心肺蘇生の中にある胸骨圧迫を AED の使い方を中心に学んでもらう。	6/30	福島区老人福祉センター 大広間
健康・介護予防 「ヤクルト健康セミナー」 健康を支える体温	免疫力低下や睡眠障害とは。 体温調節を促すものとして体温の基本を知ってもらう。	7/15	福島区老人福祉センター クラブ室

(様式 1)

健康・介護予防 漢字 DE 脳トレ	楽しく遊びながら、漢字の魅力を再発見してもらう。	7 / 2 0 1 0 / 7	福島区老人福祉 センター クラブ室
生きがい・学習 ブリザーブドフ ラワーアレンジ講座	生花の一番美しい時期に色素を抜き取り、特殊な加工を施し出来上がったフラワーを使用。 わくわくした感覚を味わってもらおう。	7 / 2 9	福島区老人福祉 センター クラブ室
生きがい・学習 オンデマンドバスを 予約しましょう 「スマホアプリ活用 講習会」	スマホアプリでオンデマンドバスを予約し、活用することで高齢者のアクセスの利便性を向上させて頂く。	8 / 2 8 / 9	福島区老人福祉 センター クラブ室
生きがい・学習 アプリや電話で簡単 に呼べる mobi 「スマホアプリ活用 講習会」	楽しくわかる iPhone のテーマでソフトバンクスマートフォンアドバイザーによる講習。 (好評であり、追加で実施)	8 / 3 0 午前・午後	福島区老人福祉 センター クラブ室
生きがい・学習 ドコモのスマホ教室 「災害に備える」	災害時に、家族や友人の安否確認等に役立つサービスの活用法を習得する。	9 / 2 7	福島区老人福祉 センター クラブ室
生きがい・学習 ソフトバンクスマホ 教室 「初めてのスマホ体 験教室」	スマホを使いこなす楽しさを味わってもらう。	1 0 / 2 1 1 0 / 2 5	福島区老人福祉 センター クラブ室
生きがい・学習 予防救急と応急手当 「福島消防署」	転倒や転落による怪我などを未然に防ぐ方法の学習。また、三角巾などを使って身近な応急手当の方法を学んだ。	1 1 / 4	福島区老人福祉 センター 大広間

(様式 1)

生きがい・学習 施設見学 「中央卸売市場」	大阪の台所である中央卸売市場が果たす役割と食品が家庭に供給されるまでの経路を体験する。	1 1 / 2 5	大阪市中央卸売市場
健康・介護予防 お口の中の健康 「オーラルフレイルについて」	加齢による食べこぼしや食事中的「むせ」などお口の機能低下に関する知識の習得と改善を学ぶ。	1 1 / 3 0	福島区老人福祉センター クラブ室
生きがい・学習 菅細工 「クリスマスリース」	菅(すげ)という草を使用し、クリスマスリースを作ります。 わくわくした感覚を味わってもらう。	1 2 / 2	福島区老人福祉センター クラブ室
生きがい・学習 はじめての俳句	1 7 文字で青春の思いや、生きる哀歌を詠む。	1 2 / 1 0	福島区老人福祉センター クラブ室
生きがい・学習 キャッシュレスってなに？ 大阪府金融広報委員会	キャッシュレス決済を賢く、利用するためのコツを学習する。 クレジットカード以外のデビットカード、スマホのQR 決済など。	1 / 2 0	福島区老人福祉センター クラブ室
健康・介護予防 「認知症」脳も体もスッキリ オレンジチーム	認知症に関する色々な知識や情報を整理しスッキリしてもらう。	2 / 1 4	福島区老人福祉センター 大広間
生きがい・学習 和太鼓体験教室	和太鼓を叩くことで怒りを鎮め爽快感を与える。 ストレス解消にも大きな効果が期待される。	2 / 2 8	福島区老人福祉センター クラブ室

(様式 1)

生きがい・学習 スマホ体験教室 ソフトバンクアンド ロイド編	高齢者はアンドロイドが多い為、限定して使いこなす楽しさを味わってもらおう。 (福島区役所共催)	3 / 7	福島区老人福祉 センター クラブ室
生きがい・学習 「区長との対談」 きらめきミーティング	要望のあった意見に対して区長より回答を頂いた。 高齢者との意見交流を通じて懇親を深めた。	3 / 1 4	福島区老人福祉 センター 大広間
健康・介護予防 ウォーキング体験教室	ダイエット、筋力アップ等、健康増進へのウォーキング効果のポイントを学んだ。 食事内容、時間帯についても学習した。	3 / 2 2	福島区老人福祉 センター 大広間

③ チェック (C) (成果、課題)

ア 相談・情報提供

事業名	C (結果)
相談・情報提供 「代表者個別打合せ」	「代表者会議」は、多くの同好会を一同に会して説明できるメリットがあるが、感染防止対策から本年度は個別対応とした。 各同好会活動の感染予防対策、今後の日程等、報告。相談・支援した。

イ 生きがい・学習

事業名	C (結果)
生きがい・学習 「きらめき七夕まつり」	平時は、広間にて参加同好会による発表会が催され賑やかな行事である。コロナ禍で発表会は中止とし、笹飾りのみの実施とした。 7月1日(金)～7月7日(木)
生きがい・学習 「風鈴まつり」	夏の風物詩として当センターの季節行事となっている。ロビー、広間廊下に風鈴を吊るし、涼しげな音色を奏でた。また、手作りのモビールも彩りを添えた。 7月1日(金)～9月30日(金)
生きがい・学習 ペーパークイニング体験講座 「2WAY フォトフレームの世界へ」	紙の巻き方や、基本的な作り方を学びながら作品を「2WAY フォトフレーム」にして教えてもらった。 参加者は12名であった。
生きがい・学習 ドコモ「スマホ体験講座」 ① 5/17.18 ② 6/9.10 ③ 7/7.8	自分のスマホで2日連続で学んだ。 1日目:基本 2日目:カメラを使いこなす マイスマホ、2日連続は、初めての企画であったが大好評であった。 5/17.18:16名 6/9.10:16名 7/7.8:14名 合計46名の延べ参加人数であった。
生きがい・学習 「救命講習」 福島消防署救命隊	救命入門コース90分を救急隊の方にきらめきセンター向けに説明頂いた。実践的に教えて頂き理解が深まった。 参加者は11名であった。
生きがい・学習 ブリザーブドフラワー アレンジ講座	生花に特殊加工を施し、長期保存できる新しい種類の花のブリザーブドフラワーを使ってアレンジ。花器も10種有り好評であった。 参加者は12名であった。
生きがい・学習 オンデマンドバスを予約しましょう 「スマホアプリ活用講習会」	Osaka Metro によるアプリ説明。スマホで乗降場所を指定してバスの迎えの予約方法などの操作を体験した。 参加者は、8/2、8/9の2日間で28名であった。
生きがい・学習 アプリや電話で簡単に呼べる mobi 「スマホアプリ活用講習会」	Community Mobility によるアプリ説明。アプリの活用法や定額乗り放題などのプランを体験した。 参加者は、8/30午前、午後で22名であった。

生きがい・学習 ドコモのスマホ教室 「災害に備える」	災害発生時の安否確認に役立つサービスの利用方法を教えてもらった。いざと言う時に、知っていると便利なサービスについても学んだ。 参加者は、12名であった。
生きがい・学習 ソフトバンクスマホ教室 「初めてのスマホ体験教室」	基本操作方法の体験。カメラ、マップ案内、写真アルバム、QRコード、LINE 操作、音声アシスタント Siri による便利機能について学んだ。 参加者は、10/21、10/25で30名であった。
生きがい・学習 予防救急と応急手当 「福島消防署」	転倒や転落による怪我などを未然に防ぐ方法を学んだ。 日頃からの心がけや環境づくりの方法、身近な応急手当の方法も学習した。 参加者は、9名であった。
生きがい・学習 施設見学 「中央卸売市場」	中央卸売市場の仕組、役割について学んだ。また、食品が家庭に供給される過程の経路を学んだ。 JR 野田駅から中央卸売市場までの往復のウォーキング、市場での施設見学、買い物も好評であった。 参加者は、20名であった。
生きがい・学習 菅細工 「クリスマスリース」	菅(すげ)と言う草を使用し、クリスマスリースを作成した。 草を「ひねる」ことで指先を使い、脳の活性化を促した。 大変、好評であった。 参加者は、12名であった。
生きがい・学習 はじめての俳句	初心者やもう一度初心に戻って学びたい方に季語や俳句のルール、コツなどを分かりやすく指導頂いた。 参加者は、7名であった。
生きがい・学習 キャッシュレスってなに？ 大阪府金融広報委員会	キャッシュレス決済を利用する際に知っておきたい事や気を付けたいポイントを学んだ。 参加者は、21名であった。
生きがい・学習 和太鼓体験教室	騒音で近所に迷惑のかからないように、音量を調節できる電子太鼓を使用した。 運動機能とともに、脳を活性化し集中力アップ、ストレス解消にも大きな効果があった。 参加者は、30名であった。
生きがい・学習 スマホ体験教室 ソフトバンクアンドロイド編	ICT リテラシーの一環で福島区役所との共催で実施した。 知っておきたいスマホ知識、日常生活に役立つ使い方を学んだ。 基本の操作方法の体験も頂き、好評であった。 参加者は、3/7 午前、午後で31名であった。

(様式 1)

生きがい・学習 「区長との対談」 きらめきミーティング	日頃、気になっている事など、事前に提出頂いて深津区長に答えてもらったり、当日の質疑応答も行った。懇親が深まるとともに、高齢者の生の声が区長にも届き有意義な場であった。 参加者は、27名であった。
--	--

ウ 健康・介護予防

事業名	C (結果)
健康・介護予防 「健康セミナー」 (株) 明治	原料となる「カカオ」の生産やチョコレートの製造、歴史、カカオ農家、オリゴ糖の働きについても学んだ。 参加者は、13名であった。
健康・介護予防 「ヤクルト健康セミナー」 健康を支える体温	体温を測ることが日常になっているが、健康を支える「体温」について学んだ。 また、血管年齢の測定も行い好評であった。 参加者は、12名であった。
健康・介護予防 漢字 DE 脳トレ	漢字に関する様々な知識を分かりやすく解説頂いた。 また、関連したクイズやパズル問題などにチャレンジした。 参加者は、19名であった。
健康・介護予防 お口の中の健康 「オーラルフレイルについて」	お口の中のスペシャリスト中村先生(福島区歯科医師会理事)砂川先生(栄養士)による講和と実演。 オーラルフレイルのことについて分かりやすく学んだ。 参加者は、13名であった。
健康・介護予防 「認知症」脳も体もスッキリ オレンジチーム	認知症についての知っている知識や色々な情報を一旦、整えて脳と体もスッキリして頂いた。 参加者は、23名であった。
健康・介護予防 ウォーキング体験教室	ウォーキング効果をアップさせるコツや効率の良い食事、時間帯、服装、シューズなどについて学んだ。 参加者は、22名であった。

④ 改善策 (A) (次年度に向けた改善内容)

ア 相談・情報提供

事業名	A (改善)
相談・情報提供 「個別代表者打合せ」	同行会代表者を一堂に会しての会議は今後も重要であるがコロナ感染状況に応じて適宜対応したい。 本来は、「代表者会議」として、重要な周知、文化祭実行委員長選出などに活用。また、会議内での質疑応答によるメリットも大きい。次年度はコロナ感染状況を見て対応したい。

イ 生きがい・学習

生きがい・学習 「きらめき七夕まつり」	平時は、季節行事として人気がある。しかしながら、コロナ禍では開催は難しいので同好会参加による発表は取りやめ、七夕笹の短冊、飾り付けのみとする。
生きがい・学習 「風鈴まつり」	夏の風物詩として定着している。毎年、折り紙同好会の手作りモビールなどの飾りの展示も人気のため、今後も継続する。
生きがい・学習 ペーパークイニング体験講座 「2WAY フォトフレームの世界へ」	好評であったが、他のセミナーとの兼ね合いで検討するとしていた。
生きがい・学習 ドコモ「スマホ体験講座」	ソフトバンク「初めてのスマホ体験教室」を数回予定。
生きがい・学習 「救命講習」 福島消防署救命隊	好評であったが、他のセミナーとの兼ね合いで検討するとしていた。 (福島消防署出前講座)
生きがい・学習 ブリザーブドフラワーアレンジ講座	好評であったが、他のセミナーとの兼ね合いで検討するとしていた。
生きがい・学習 オンデマンド予約 しましろう 「スマホアプリ活用講習会」	利用者の利便性向上とセンター利用拡大の為、来期も継続する。

(様式 1)

生きがい・学習 アプリや電話で簡単 に呼べる mobi 「スマホアプリ活用 講習会」	利用者の利便性向上とセンター利用拡大の為、来期も継続する。
生きがい・学習 ドコモのスマホ教室 「災害に備える」	好評であったが、他のセミナーとの兼ね合いで検討するとしていた。
生きがい・学習 ソフトバンクスマホ 教室 「初めてのスマホ体 験教室」	ソフトバンク「初めてのスマホ体験教室」を数回予定。
生きがい・学習 予防救急と応急手当 「福島消防署」	好評であったが、他のセミナーとの兼ね合いで検討するとしていた。 (福島消防署出前講座)
生きがい・学習 施設見学 「中央卸売市場」	大変好評であった為、来期も継続する。
生きがい・学習 菅細工 「クリスマスリース」	好評であったが、他のセミナーとの兼ね合いで検討するとしていた。
生きがい・学習 はじめての俳句	好評であったが、他のセミナーとの兼ね合いで検討するとしていた。
生きがい・学習 キャッシュレスって なに？ 大阪府金融広報委員 会	ドコモ「スマホ教室:応用編」キャッシュレス決済を始めるにて予定。
生きがい・学習 和太鼓体験教室	好評であったが、他のセミナーとの兼ね合いで検討するとしていた。
生きがい・学習 スマホ体験教室 ソフトバンクアンド ロイド編	ソフトバンク「初めてのスマホ体験教室」を数回予定。

生きがい・学習 「区長との対談」 きらめきミィーティ ング	大変好評であり、来期は節目の第10回きらめきミィーティングとなる ので開催する。
--	---

ウ 健康・介護予防

健康・介護予防 「健康セミナー」 (株) 明治	来期の(株) 明治の食育セミナーは「乳酸菌」で開催する。
健康・介護予防 「ヤクルト健康セミ ナー」 健康を支える体温	来期のヤクルト健康セミナーは、「腸から整えるカラダとココロ」で開 催する。
健康・介護予防 漢字 DE 脳トレ	大変好評の為、来期も継続する。
健康・介護予防 お口の中の健康 「オーラルフレイル について」	大変好評の為、来期も継続する。
健康・介護予防 「認知症」脳も体もス ッキリ オレンジチーム	大変好評の為、来期も継続する。 (あいあいオレンジチームの講座として内容を検討)
健康・介護予防 ウォーキング体験教 室	好評であったが、他のセミナーとの兼ね合いで検討するをしたい。

(2)平等利用の確保

高齢者の生きがいづくり等を支援する老人福祉センターの運営にあたり、平等利用につ
いては、特に「情報の提供」「利用・参加の機会」に十分に配慮し、障がいや外国にルー
ツのある高齢者が利用できるようソフト面とハード面に配慮したバリアフリー対応を行
う。

① 情報の提供

- ・「センターだより」、区社協の機関紙、区広報紙、区社協のホームページやFacebook、
福島区民等を対象とした地域情報サイトへの掲載によるインターネット媒体等、マル
チに情報の提供を行ない、利用者世代の次世代にもアピールを行う。

- ・ 定員や申込み締切日等が設定されている事業については、相当の期間を設けて周知を行い、情報へのアクセスの差を無くす。
- ・ 当センター発行の「センターだより」は住民に身近な各地域のコミュニティセンター、各単位老人クラブの配架・掲示を行っている。
- ・ アウトリーチとして、「センターだより」を、区老連「歩こう会」にて配布(4/22、5/25、6/22、9/28、10/26、11/9、12/14、1/25、2/22、3/22)、区社協 地域包括支援「出張相談」時に配布(5/17、6/7、6/9、6/16、7/2、9/17、10/6、10/8、10/19、11/5、11/24、11/25、12/1、12/11)。イオンの定例相談会でも10回配布。福島区役所11回。厚生年金会館5回。

② 利用・参加の機会

- ・ 利用や参加に関する情報は館内掲示やHP、広報紙等に記載し周知する。
- ・ 正当な理由なく利用や参加を拒むことを行わない。
- ・ 同好会の利用については、定例の代表者会議で同好会の利用調整を図る。
- ・ センター運営全般は、地域関係者及び区役所職員を委員とする施設運営委員会を開催し、各委員の意見・助言を参考に、平等・公正な運営に努める。

① 利用者サービスの向上策

- ア 利用者のサービス利用に関する評価やニーズをアンケートにて把握する事で、より良いサービス提供を目指した。
- イ 同好会活動等で常時利用する利用者については、「利用者個別代表者打合せ」を開催。利用にあたり、課題点を把握しその解決策を代表者と検討。コロナ禍における注意事項など、情報・状況を館内掲示や「センターだより」に掲載。
- ウ コロナ禍において人数制限による分割活動等、部屋利用のスケジュールを利用者代表者にて調整を行うとともに、空き部屋がある場合はその状況を公表し、追加利用の受付をして、施設の有効活用を行った。
- エ 車いすの貸出業務として館内に常備し、希望者に車いすの貸出を行った。
また、突然の雨に対応して貸傘を用意した。

(4) センターの利用促進策

センターだより等の広報誌やチラシの配付や、市・区社協のホームページや地域情報サイト等のインターネットによる情報発信を積極的に行い、情報の提供に取り組んだ。また、「センターだより」の配布は区社協、区役所、警察署、区民センター、図書館、コミュニティセンター、会館、10地域老人クラブ役員へ配布した。また、老人クラブの月2回、公園での「歩こう会」にて配布して広報活動を拡大した。一方、一人暮らし等で情報が十分に入手できない高齢者に対しては、当法人の事業(地域包括支援センター事業、地域における要援護者見守りネットワーク強化事業、介護予防運動クラブ事業、生活支援体制整備事業、地域の福祉活動サポート事業) 担当者と連携

した情報提供した。また、商店街、区役所、厚生年金会館等、において「出張相談」での「センターだより」の配布した。区社協が事務局を務める居宅介護支援事業者連絡会等の各種福祉事業所連絡会等での関係者への情報提供を通して、高齢者に情報が届くよう取り組んだ。また、高齢者本人への情報提供だけでなく、区社協が事務局を務める「家族介護者のつどい」（家族介護者支援事業）の参加者や、高齢者の家族（高齢者の子ども世代や孫世代）への情報提供を通して、高齢者に情報が届くよう取り組んだ。

(5) 利用者からの苦情・意見・満足度の把握

- ・苦情対応については、受付職員が1次対応者となり、センター運営の改善への要望（サービス向上）と捉え、真摯に対応。その内容を職員全員が共有するとともに、2次対応者（館長）が、苦情内容が拡大しないよう職員への指示を行うとともに、担当局に報告。対応策を検討して迅速実施。
- ・講座の受講等で利用する利用者については、講座等最終日に時間を設けてアンケートを実施、利用満足や課題を把握する。

4 地域との連携・人材育成

(1) 地域の関係団体・施設との連携

当センターは、地域住民や地域組織、ボランティア団体やNPO、社会福祉施設・事業所、企業、行政等とのネットワークを構築し、連携と協働する。

① 高齢者が住み慣れた地域で自分らしく生活できるよう、各種機関・団体が有する専門的知識や情報を提供する講座や研修会の共催事業を行う。

- ・福島区役所、区地域包括支援センターや認知症初期集中支援推進事業と連携した認知症や介護予防講座の実施(大広間:2/14)。
- ・当法人受託の生活支援体制整備事業と連携した介護予防事業の実施。
- ・区役所・保健福祉センター及び福島警察署、福島消防署をはじめ福島区老人クラブ連合会ならびに各単位老人クラブ、シルバー人材センター等の関係機関、コミュニティセンター等の公共用施設ならびに地域の社会資源との連携を深めた。

② 老人福祉センターが有する資源や機能を地域へ提供し、地域福祉の推進に取り組んだ。

- ・区内各地域単位の老人クラブの連合組織である区老人クラブ連合会の事務局に対し、当連合会の運営ならびに行事やイベント等の企画運営の支援した。
- ・利用者のサービス利用に関する評価やニーズをアンケートにより把握するとともに、企画や検討の段階に、利用者が「利用者代表者会議」を通して、より良いサービス提供を目指した。
- ・同好会活動等で常時利用する利用者については、「利用者代表者会議」を開催して、課題点を把握し、職員と利用者が解決策へと取り組む。また、進捗状況を館内掲示やセンター

だよりに定期的に掲載した。

(2) 人材育成・ボランティア活動支援等

高齢者の生きがいがづくりの支援から、地域等への貢献活動に繋げていくことで、更なる生きがいや社会的役割の機会を提供し、高齢者の人材育成を行った。

- ・ 介護予防ポイント事業の介護予防ポイントボランティア活動の機会の提供した。
- ・ 区社協が実施している福島お助けネットワーク事業（有償活動による住民同士の助け合い紹介。）を通して、サポーター活動への参加の機会の提供した。
- ・ 福祉・看護・介護系の大学・短大、専門学校から実習生を受け入れ支援指導。専門職養成の支援。看護専門学校/23名、5/30、5/31、6/1、6/6、6/7、6/8、6/9。医療専門学校/4名10/18、10/20。
社会福祉援助技術現場実習/2名、6/16、6/21、8/30

5 その他

(1) 職員研修の実施状況

令和4年度も引き続き、大阪市社会福祉協議会と連携して、地域福祉、コンプライアンス、人権研修等を受講。

日時	場所	参加人数	テーマ	研修方法	時間
8/16	福島区老人福祉センター	1名	大阪市社会福祉施設職員人権研修	自分のパソコンより視聴	100分
8/16	福島区老人福祉センター	1名	第1回社会福祉施設人権ワークショップ	オンライン(Zoom)	2Hr
9/7 9/16	福島区社協	2名 2名	災害基礎・被災地の実態・災害ボラセン基礎	動画視聴	2Hr
9/15 9/16	福島区社協	2名 2名	地域共生社会の実現に向けた権利擁護支援の推進	動画視聴	2Hr
10/5 10/19	福島区社協	2名 2名	災害ボランティア研修	動画視聴	2Hr
10/20	福島区民センター	1名	飲料水衛生管理講習会	対面	1Hr
12/3	福島区役所	1名	災害ボランティア実施訓練	対面	2.5Hr
1/25	情報センター	1名	身近に考えよう多文化共生 こんな時どうする	対面	2Hr
2/15 2/16 2/21	福島区社協	1名 2名 1名	「コロナ禍の人権について」 ～差別や偏見をなくすために	自身のパソコンより視聴	1.5Hr

(2) 個人情報の保護・情報公開について

利用申請手続き、各種事業への参加申込み等において取扱った個人情報は、関係法令をはじめ「大阪市個人情報保護条例」遵守して取扱った。当協議会の個人情報の保護に関する方針を基本として、「個人情報保護規定」により、情報の漏洩や利用証の管理を的確に行った。また、個人の権利・利益の侵害防止するため、最大限必要な措置を講じた。

また、地域による地域のための施設であることを一層明確にし、住民本位の開かれた施設運営を行った。施設運営の透明性を確保するとともに、住民が必要とする情報を適切に公開し、住民参加を促進するように努めた。

住民の理解と信頼を確保するために、個人に関する情報は最大限に保護することを基本にして、「大阪市情報公開条例」の趣旨を踏まえ、適切に情報の公開を行った。

(3) 職員の労働条件の確保・環境への配慮

- ・働き方改革によるタイムレコーダーの労働時間を管理徹底、年次有給休暇の最低 5 日取得の徹底。全職員による「ストレスチェック」のシート受診や産業医による衛生委員会を月 1 回開催している。
- ・高齢者に負担の無い範囲で環境への配慮として節電・節水し、コピー機もリフレッシュリサイクル製品を使用。3 年かけて照明の LED 化を完了した。

6 収支決算状況

(単位：円)

収 入 (項目)		内 訳	計 画	決 算
	業務代行料	大阪市からの業務代行料	16,900,000	16,900,000
	雑収入等	参加費収入	0	30,200
収入合計 (A)		—	16,900,000	16,930,200
支 出 (項目)		内 訳	計 画	決 算
	人件費	職員 4 名分	14,100,000	13,509,741
	物件費	事業費、管理費、その他	2,800,000	3,024,634
支出合計 (B)		—	16,900,000	16,534,375
収支 (A) - (B)			0	395,825

【計画と決算の差額の主な理由】

- ・館長交代による人件費の減。
- ・蛍光灯の LED 他に伴う、工事費約 10 万円の増。
- ・コロナ禍の影響による事業の自粛、経費節減効果及び感染予防対策の費用差額が出た為。

【経費節減のために主に取り組んだこと】

- ・高齢者に負担の無い範囲で環境への配慮として節電・節水し、印刷物の裏面利用、ECO 照明の LED 化を進めた。

以 上

(様式 1)